国語科 学習指導案

一. 指導期間

二. 指導学級 京都市立〇〇中学校一年生

三. 育成をめざす言語能力

・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること

読むこと(1)ーウ

・文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、
古典の世界に触れること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項アー(ア)

四. 単元・教材名 4. 古典との出会い 「今に生きる言葉」

五. 教材の目標

- ・「故事成語」とは何かを理解し、どのような言葉があるのか調べたいものを挙げさせる。
(関心・意欲・態度)
- ・「矛盾」の現代語訳を参考に読み、故事の内容を理解させる。(読むこと)
- ・よく使われる故事成語について言葉の由来や意味を調べ、用例を考えさせる。(書くこと)

六. 学習活動における具体の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・故事成語の意味や成り立ちについて調べたり、まとめたりしようとしている。	・故事成語の意味を理解し、由来や故事を説明することができる。	・漢文独特の言い回しに注意しながら、音読することができる。

七. 単元構想 《全三時間》

	学習内容	評価規準（B基準）〔評価方法〕	関 話 書 読 言	◇支援 ・留意点
<p>①</p> <p>・今後の学習計画をたてる。</p> <p>・P123の原文を口語訳と読み比べることで漢文特有の言い回しに気づき、原文を繰り返し読んで漢文特有の言い回しに慣れる。</p> <p>言語活動 音読</p>	<p>・今後の学習計画に沿った言語活動を考えている。 〔評価方法：ワークシート〕</p> <p>・漢文特有の言い回しに注意しながら、音読することができる。 〔評価方法：観察〕</p>	○	○	<p>◇一斉に音読をしたあと、グループで読み合いをするにより、漢文特有の言い回しに慣れることができるようにする。</p> <p>・歴史的仮名遣いの発音や間のとり方を確認する。</p> <p>「ワークシート①」</p>
<p>②</p> <p>「推敲」「五十歩百歩」「背水の陣」「蛇足」などの言葉の由来を調べる。</p> <p>言語活動 グループでの調べ合い ミニプレゼンテーション</p>	<p>・「矛盾」という故事成語の意味を理解し、故事を説明することができる。 〔評価方法：ワークシート〕</p> <p>・提示した故事成語の由来を調べている。 〔評価方法：観察・ワークシート〕</p> <p>・資料から故事成語の由来や意味を読み取り、自分の言葉でまとめることができる。 〔評価方法：ワークシート〕</p>	○	○	<p>◇由来や意味をふまえ、用例を考えることにより、「矛盾」という故事成語を日常で使うことができるようにする。</p> <p>・辞書や資料を活用する。</p> <p>「ワークシート②」</p>
<p>③</p> <p>各自一枚、「故事成語カード」を書き、クラスで「故事成語集」をつくる。</p> <p>言語活動 グループでの相談 故事成語集の作成</p>	<p>・由来や意味、用例について相談することでお互いの考えを広げ、故事成語集にまとめている。 〔評価方法：観察・ワークシート〕</p> <p>・調べた故事成語の由来や意味、用法について、他者に理解しやすいようにまとめて書くことができる。 〔評価方法：故事成語カード〕</p>	○	○	<p>・由来のポイントとなる部分に着目する。</p> <p>・調べた意味の由来を四コマ漫画で表現する。また用例を相談して記事に書く。</p> <p>◇四コマ漫画で表すことにより、由来の内容を理解できるようにする。</p> <p>「故事成語カード」（「故事成語集」）</p>

八. 教材観
九. 生徒観
十. 指導観

省略

十一・本時

本時の目標…学習計画をたて、漢文特有の言い回しに注意しながら音読することができる。

本時の展開…単元構想①

導入	指導者の活動	生徒の活動	◇支援 ・指導上の留意点 評価場面1
<p>十五分</p>	<p>①「今に生きる言葉」という教材名から、学習内容に興味をもつようにする。</p> <p>②本時のねらいの提示をする。(三分)</p>	<p>①教材名から、これからの学習内容を知る。</p> <p>②ねらいをワークシートに記入する。</p>	<p>・「今に生きる」とは「昔できた言葉が現在でも使われている」ということであり、「生き続ける言葉」として今回は「故事成語」について学ぶことを伝える。</p> <p>・書くことで本時の活動を理解し、意識できるようにする。</p>
<p>③学習の流れをワークシートで提示し、学習計画(言語活動計画)をたてるよう指示する。(十分)</p> <p>④この教材を通してつけることのできる力をワークシートで提示する。(二分)</p>	<p>③学習計画をたて、三時間の見通しをもつ。</p> <p>④この教材を学ぶことのできるような力がつくのかをワークシートを通して知る。</p>	<p>評価1今後の学習内容に沿った言語活動を考えている。(関)「ワークシート」</p>	
<p>つけることのできる力(生徒にはゴシック体の三点をワークシート中に提示する)</p> <p>一・漢文の訓読の仕方を知り、漢文特有のリズムを味わいながら音読する。(伝(一)ア(ア))</p> <p>↓「リズムよく漢文を読む力」</p> <p>二・文章の展開に注意しながら、そこに表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くする(読(一)ーウ・オ)</p> <p>↓「漢文の内容を読み取る力」</p> <p>三・故事成語にかかわる文章から、必要な情報を集めるための読み方を身につける。(読(一)ーカ)</p> <p>↓「故事成語を使いこなす力」</p>	<p>⑤教科書P 122の本文を範読する。続いて生徒に音読するよう指示する。</p> <p>(五分)</p>	<p>・続いて各自音読するので、範読の間に読めない漢字にはふりがなを打つことを指示する。</p>	
<p>展開</p> <p>二十五分</p> <p>⑥本文の内容から「故事成語」についておさえる。</p> <p>(三分)</p>	<p>⑥本文中から「故事成語」の説明の箇所を探し、傍線を引く。</p>	<p>《故事成語》中国の古典に由来する言葉で、歴史的な事実やたとえ話などのエピソードを背景にもっているもの。</p>	

	指導者の活動	生徒の活動	◆支援 ・ 指導上の留意点 評価場面2
展開	⑦教科書P 123 「矛盾」の本文を範読する。 (五分)	⑦「矛盾」の本文にふりがなを打つ。	◇支援 ・ 指導上の留意点 ・このあとグループで読むので、漢字などで読めないところがないようにふりがなを打つよう指示する。 ・「くあり」「いはく」「なきなり」「と。」「せざる」「をもつて」「さばいかん」「あたはざるなり」など。
⑧原文と口語訳を黙読で比べ読みするよう指示し、原文の「漢文特有の言い回し」に気づくように指導する。 (三分)	⑧比べ読みをして、口語訳にない言い回しとして気づいたことを発表する。	・⑧で気づいた言い回しに注意し、つまらないように留意することを指示する。 ・声をしつかり出すよう指導する。 ◇グループで読み合いをすることにより、漢文特有の言い回しに慣れることができるようにする。	
⑨二回範読し、後に続いて音読するよう指示する。(四分)	⑨指導者の後に続いて二回音読する。	・自信のある生徒から希望順に司会者の役割をするよう指示する。 評価2 漢文特有の言い回しにつまずかないでしつかり声を出して音読できているか。 (読)〔観察・自己評価シート〕	
まとめ 五分	⑩グループ学習 三人グループを作るよう指示し、一人ずつ司会者役を決め、司会者役から先に読む。あとの二人はその後に続いて音読するよう指示する。(五分)	⑩三人グループになり、音読練習をする。	・自己評価項目 「今後の学習活動を見通せたか」 「この教材を学ぶことのできる力を持ってきたか」 「矛盾の本文を大きな声で読めたか」 「矛盾の本文をすらすらとつまらずに読めたか」
	⑪本時の活動の振り返りを指示する。	⑪ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。	
	⑫ワークシートを回収する。	⑫ワークシートを提出する。	

本時の目標：様々な故事成語を調べ、由来や意味を自分の言葉でまとめることができるようにする。
 本時の展開：①単元構想②

導入	指導者の活動	生徒の活動	◇支援・指導上の留意点 評価場面1～3
十五分 ①本時のねらいの提示をする。 (三分) ねらい ①様々な故事成語の由来や意味を調べよう。	②この教材を通してつけることのできる力をワークシートで提示する。(二分) ③この一時間に学ぶことのできるような力がつくのかを意識する。 ④「ねらいをワークシートに記入する。」 ⑤様々な故事成語の由来や意味を調べよう。	①ねらいをワークシートに記入する。 ②この一時間に学ぶことのできるような力がつくのかを意識する。 ③教科書P123の本文や4コマ漫画から、「矛盾」の由来や故事を思い出し、また、自分の身の回りの「矛盾」例を考え、ワークシートに記入する。 ④「ねらいをワークシートに記入する。」 ⑤自分が調べる故事成語を知り、グループの形態になって各自調べる。	・グループで相談したりお互いのものを参考にしたりしてもよいことを伝える。 ・「矛盾」という故事成語の意味を理解し、故事を説明することができる。(読)「ワークシート」 ・ワークシート形式で故事成語の意味を考える。 ・資料は「便覧」「指導者から提示された資料」を使用する。 ・一時間である程度のところまで進むようにするため、今回はコンピュータ室は使用しない。 評価2 提示した故事成語の由来を調べている。(関)「観察・ワークシート」 ・自分の書いた内容を伝え合うことで、由来や意味がわかっているかを自分で確認できるといいうことを伝える。 ・各自1～2分で話し、お互いに評価し合う。 評価3 資料から故事成語の由来や意味を読み取り、自分の言葉でまとめることができる。(読)「ワークシート」
展開 二十五分 ④「故事成語クイズ」をし、様々な故事成語に興味をもたせる。(五分) ⑤各自に、調べる課題の故事成語を伝え、三人グループで故事成語の由来・意味・用例などを調べるよう指示する。(十分) ⑥グループの中で、自分の調べた故事成語について「由来」「意味」「用例」を言葉で説明するように指示する。(十分)	③「グループ活動」「矛盾」の故事や意味を復習するために、教科書を見ながらワークシートに書くよう指示する。また、自分の考えとして、自分の身の回りの「矛盾」の例を考えて書くよう伝える。 指名し、発表するように指示する。 ④「故事成語クイズ」に答え、「矛盾」以外の故事成語に興味をもつ。	③教科書P123の本文や4コマ漫画から、「矛盾」の由来や故事を思い出し、また、自分の身の回りの「矛盾」例を考え、ワークシートに記入する。 ④「故事成語クイズ」に答え、「矛盾」以外の故事成語に興味をもつ。	評価1 「矛盾」という故事成語の意味を理解し、故事を説明することができる。(読)「ワークシート」 ◇由来や意味を踏まえ、用例を考えることにより、「矛盾」という故事成語を日常で使うことができるようにする。 《意味》 つじつまが合わないこと。 《自分の考え》自分の身近なところで見つけた「矛盾している」といえる出来事。 《由来》 ある男が、矛と盾をどちらも最も鋭く最も硬いと言って売り、その矛でその盾を突いたらどうなるのかと問われて答えられなかったこと。 ・グループで相談したりお互いのものを参考にしたりしてもよいことを伝える。

<p>まとめ 五分</p>	<p>指導者の活動</p> <p>⑦本時の活動の振り返りを指示する。</p> <p>⑧ワークシートを回収する。</p>	<p>生徒の活動</p> <p>⑦ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。</p> <p>⑧ワークシートを提出する。</p>	<p>・指導上の留意点</p> <p>・自己評価項目</p> <p>「矛盾という故事成語の由来・意味を理解できたか」</p> <p>「自分の課題の故事成語を調べることができたか」</p> <p>「故事成語の意味・由来・用例を自分の言葉でまとめることができたか」</p>
-------------------	---	--	--

本時の目標：調べた故事成語について、「由来」「意味」「用法」などを「故事成語カード」にまとめることができるようにする。
 本時の展開：単元構想③

導入 十分	指導者の活動	生徒の活動	◇支援・指導上の留意点 評価場面1・2
①本時のねらいの提示をする。 (三分) ねらい 調べた故事成語の「由来」「意味」「用法」をカードにして他の人に伝えよう。 ②この教材を通してつけることのできる力をワークシートで提示する。(二分) 身につく力 故事成語を使いこなす力 ③「故事成語集」の作り方を紹介する。(五分)	①本時のねらいの提示をする。 (三分) ねらい 調べた故事成語の「由来」「意味」「用法」をカードにして他の人に伝えよう。 ②この教材を通してつけることのできる力をワークシートで提示する。(二分)	①ねらいをワークシートに入する。 ②この一時間に学ぶ内容で、どのような力がつくのかを意識する。 ③故事成語集の書き方を例示された資料から知る。	・書くことで本時の活動を理解し、意識できるようにする。 ・一人一枚が故事成語の記事(A5版カード)を書き、クラス全員の分を「故事成語集」としてまとめることを伝える。 ・用例や言葉の意味など、自分ひとりで考えにくいようであれば相談しても構わないことを伝え、どの生徒もこの時間内に一枚のカード(A5版)を完成できるようにする。 ・「故事成語を四コマ漫画で表したもの」は各自必ず書くことを指定し、その他「由来や故事」「意味」「用例」「調べた感想」の中から二点を選ぶよう指示する。 ◇四コマ漫画で表すことにより、由来の内容を理解できるようにする。 評価1 由来や意味、用例について相談することでお互いの考えを広げ、故事成語集にまとめようとしている。(関)「観察・ワークシート」 評価2 調べた故事成語の由来や意味、用法について、他者に理解しやすいようにまとめて書くことができる(関)「観察・ワークシート」
展開 三十五分	④グループ活動 机をグループ隊形にし、相談できる状態をとりながら記事をまとめて故事成語カードの完成をめざすよう指示する。 (二十分)	④自分の調べた内容を記事にまとめ、故事成語カードを完成する。	・自己評価項目 「わかりやすい故事成語集を作るために、グループ内で相談することができたか」 「故事成語について、他の人に伝わるように工夫して書くことができたか」
⑤この時点までのお互いのカードを見せあい、自分の記事の工夫点を考える時間をとる。(五分) ⑥カードの仕上げをする時間をとる。(十分)	⑤お互いの記事を参考にしながら自分の記事の工夫点を考える。 ⑥⑤で考えた工夫点を取り入れカードの続きをする。	⑦ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。 ⑧ワークシートを提出する。	・自己評価項目 「わかりやすい故事成語集を作るために、グループ内で相談することができたか」 「故事成語について、他の人に伝わるように工夫して書くことができたか」
まとめ 五分	⑦本時の活動の振り返りを指示する。 ⑧ワークシートを回収する。	⑦ワークシートの「自己評価」を書くことで、本時の学習内容の振り返りをする。 ⑧ワークシートを提出する。	・自己評価項目 「わかりやすい故事成語集を作るために、グループ内で相談することができたか」 「故事成語について、他の人に伝わるように工夫して書くことができたか」